

# 登録解体基幹技能者講習考査試験問題

(試験時間 60 分)

## [注意事項]

- (1) 受講番号は、受講票（メール）で確認してください。
- (2) 問題は全部で 25 問です。
- (3) 解答する際は、別紙のマークシート解答用紙を使用してください。
- (4) マークシート解答用紙のみ回収します。
- (5) この問題用紙は持ち帰っても構いません。

受 講 番 号						

氏 名	(フリガナ)
	(漢字)

**問題1** 登録解体基幹技能者の特徴に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 現場を効率的にまとめる高度なマネジメント能力に優れた解体工事の技能者
- ② 解体工事における中核的な役割として、熟達した能力と豊富な知識と経験を持っている者
- ③ 建設キャリアアップシステムの能力評価基準のレベル3の資格者
- ④ 解体工事における技能者の目標像として活躍が期待されている者

**問題2** 登録解体基幹技能者の役割に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 解体現場における施工管理を行う。
- ② 他職との連絡調整を行う。
- ③ 後継者の育成をする。
- ④ 技能者には何も教えず、自分の背中を見せて仕事を覚えさせる。

**問題3** 公共工事の品質確保の促進に関する法律（品確法）において、平成26年に改正された登録基幹技能者と関係する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 現在及び将来の公共工事の品質確保
- ② 公共工事の品質確保の担い手の短期的な確保・育成の促進
- ③ 施工技術の維持向上とそれを有する者の中長期的な確保・育成
- ④ 災害対応を含む地域維持の担い手確保への配慮

**問題4** 登録解体基幹技能者が行うOJT教育に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① OJTとは、研修ルーム等を用い教育対象者に集ってもらい、集合研修を行うこと。
- ② OJTとは、職場内訓練と訳され実際の現場において実務を通じ、知識やスキルを身に付ける。
- ③ OJTは、現場で仕事をしながら教育を行うため、実践的なノウハウが学べる。
- ④ OJTは、基本的に現場でその工程ごとに、直接指導を行うため、理解度の確認ができる。

**問題5** 登録解体基幹技能者が行う OJT 教育の指導内容に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 解体工事は、安定な状態にあるものを不安定にしていくため、その場での知識が必要とされる、いわゆる暗黙知である。
- ② 経験の浅い部下は、事故等の発生リスクが高いため登録解体基幹技能者の持つ能力レベルで、教え込む。
- ③ 作業標準書の作成は、時間制約、部下とのコミュニケーション、PDCAサイクルにもつながる。
- ④ 組織風土の枠内での能力開発になりがちなので、ボランティア活動などで視野を広げる。

**問題6** OJT における基本的な指導方法に関する次の記述のうち、**最も適当なもの**はどれか。

- ① 技能者を配置せず、まずはやらせてみる。
- ② 経験させる回数をなるべく減らし、理解を促す。
- ③ 学んだ技術やスキルを自ら意欲的に習得しようとするための動機づけを行う。
- ④ 技能者がやって見せる時に、模範的なやり方を教えない。

**問題7** 解体工事の施工計画に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 解体工事は、一定の物差しが通用せず標準化が難しい。
- ② 解体工事は、熟練者が計画をしても想定外の壊れ方をする場合もある。
- ③ 解体工事は、緻密な施工計画を要求される場合もある。
- ④ 解体工事の元請は、下請に施工計画書などの必要書類の全てを作成させればよい。

**問題8** 解体工事の施工管理に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 解体工事は、関係法令に基づいて適切に対応することが求められる。
- ② 施工管理は、品質、コスト、工程、安全・環境の管理が基本となる。
- ③ 登録解体基幹技能者は、「より早く」「より良く」「より安全に」を満足する施工管理を行うことが重要である。
- ④ 解体工事の元請は、監理技術者を配置すれば安全管理だけで良く、施工管理は登録解体基幹技能者の役割である。

**問題9** 建設副産物処理に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 元請が下請に発注する場合に、下請の解体業者に委託契約やマニフェスト管理を任せるケースも少なくないが、これは違法である。
- ② 電子マニフェストシステムは、排出事業者、収集運搬業者、処分業者といった一連の関係者すべてが導入していなければ機能しないため普及が遅れているが、業界全体の効率化のため導入を推進すべきである。
- ③ 元請として解体工事を受注した建設業者は、排出事業者となるため廃棄物の処理責任があり、法令に基づいて委託契約、マニフェストの発行と管理、最終処分の確認の義務がある。
- ④ 廃棄物処理が不適切であれば、重大な問題となりかねないが、基本的には作業所の判断で迅速に進めることが理想的である。

**問題10** 解体工事の工程管理に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 工程管理は、工事の進捗状況を検討しながら施工方法、労働力、資材、機械等の効果的な運用と安全面の確認など工事全般を図るための管理である。
- ② 工程管理には、着工前に工程表を作成する段階と、着工後に実施工程による進捗状況を把握し、必要に応じて是正を行う管理がある。
- ③ 工程表の代表的なものとしては、バーチャート工程表、フィッシュボーンチャート、ネットワーク工程表、管理図がある。
- ④ 一般的に解体工事においては、バーチャート式工程表を使用している例が多く、大型現場であれば、月間工程表、週間工程表を作成するのが望ましい。

**問題11** 解体工事の工程表作成に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 工程表の作成には、予定工期から逆算して各作業を組み込んでいく方法を取る場合が多く、作業の工夫等により余裕を持って経済的に作業が行えるようにする。
- ② 工程の遅れは、発注者や元請に迷惑をかけるばかりではなく工事費がかさみ、請負人も不利益を被ることになるので、必ずしも契約条件を守る必要はない。
- ③ 工程計画は、各種申請書類（道路占用、道路使用、特殊車両通行、足場の設置、建設リサイクル法の届出等）や産業廃棄物の委託契約にかかる日数も考慮する。
- ④ 働き方改革の観点から、下請を含めた週休2日など休日の確保や長時間労働の是正を、会社や発注者、元請と協議し工期を設定するように努める。

**問題 12** 建設副産物の搬出手配に関する次の記述のうち、**最も適当なものはどれか。**

- ① 解体工事では、産業廃棄物処理場の処理能力よりも、現場の廃棄物の搬出能力が大きくなることはないので処理場の状況把握は不要である。
- ② 現場で分別が不可能な建設副産物が発生した場合は、処理場に事前確認さえしておけば、混合廃棄物として処理しても良い。
- ③ 常に処理場の状況を把握し、複数の処理場との契約を行い、臨機応変に処理場の変更を行う判断力と技量が必要となる。
- ④ 建設副産物の委託契約時点では、処理施設の処理能力や保管量の確認と、受入が可能な状況かの確認は省略できる。

**問題 13** 天井材取りこわしにおいて解体作業員が1㎡当たり0.04人工の場合、解体作業員1日の一人当たりの施工量が何㎡になるか、以下のうち、**最も適当なものはどれか。**

- ① 30㎡/人工
- ② 25㎡/人工
- ③ 40㎡/人工
- ④ 20㎡/人工

**問題 14** 解体工事における工事費に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 解体工事の原価算出にあたり、経験による坪単価から積算を行う。
- ② 受注後、施工計画に基づいて現場に応じた的確な予算書を作成する。
- ③ 実際原価と実行予算に差異が生じた場合は、その原因分析と改善対策を行い、施工計画の再検討を含む原価発生の統制及び原価低減などの措置を講じる。
- ④ 解体工事では、職長の責務として日常管理において、その日の施工量における労務費数量、機械器具費使用数量、発生廃棄物の発生量より実際原価を算出し、金額と数量の両面から実行予算と対比させる必要がある。

**問題 15** 解体工事における工事費の構成に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 解体工事費は、一般管理費と工事原価で構成される。
- ② 工事原価は、純工事費と現場経費で構成される。
- ③ 純工事費は、直接工事費と共通仮設費で構成される。
- ④ 直接工事費は、直接解体費と現場経費で構成される。

**問題 16** 解体工事の品質管理の手法に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 解体工事において品質上問題になる特性と、それに関係する要因が因果関係にある。
- ② フィッシュボーンチャートは、様々な要因と特性の把握を視覚的に把握することができる。
- ③ 特性要因図作成に当たり、登録解体基幹技能者がファシリテーターとなり、ブレインストーミングを行う。
- ④ ブレインストーミングを行うにあたり、若手は経験が浅いので、意見を採用しない。

**問題 17** 解体工事の品質管理に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 解体工事の品質管理では、工事に従事する関係者間で認識を共有するとよい。
- ② 解体工事の品質管理では、各作業における品質特性と要因を分析するとよい。
- ③ 解体工事で目標とする品質は、発注者の意見によらず、施工者が自由に定める。
- ④ 解体工事に求められる品質は、工事現場ごとに異なる。

**問題 18** 解体工事の品質確保に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 解体工事の品質を確保するためには、品質を確保するための具体的な方法を施工要領書に明記する必要がある。
- ② 解体工事の品質は、法令を順守すれば十分である。
- ③ 解体工事の作業標準書は、国の仕様書や学協会の指針を参考にするるとよい。
- ④ 解体工事の品質が確保されないと、公衆災害や環境事故につながる可能性がある。

**問題 19** 建設工事における安全衛生管理に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 安全衛生管理計画は、できるだけ具体的で分かり易いものでなければならない。
- ② 現場での安全管理で最も重要なのは、全体朝礼であり、他の打ち合わせ等は不要である。
- ③ 作業手順書を作成し、周知徹底をすることで、手順と危険要因について理解を深めることができる。
- ④ 作業手順書には「いつ、誰が、どこで、何をするのか」について、具体的に記述しなければならない。

**問題 20** 安全衛生管理におけるヒヤリ・ハットに関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① ヒヤリ・ハット報告書の目的は、情報収集分析することで、災害未然・再発防止の対策を講じることである。
- ② ヒヤリ・ハット報告書を有効活用するためには、作成者自身に報告してもらい、第三者の客観的な視点での分析を加えてもらうことも有効である。
- ③ ヒヤリ・ハット報告書に記載が必要なのは、発生状況と防止対策だけで充分である。
- ④ ヒヤリ・ハット報告書は、災害防止のための重要な資料となるので、しっかり保管しておかなければならない。

**問題 21** 解体工事に携わる作業員の健康管理と指導に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 作業員の健康状態に応じて、その日の作業分担や配置を検討するとよい。
- ② 作業員にとって快適な作業環境を整えると、災害防止に役立つ。
- ③ 解体工事では、熱中症の予防など作業員の身体的な体調管理が重要であり、心のケアについては作業員自身に任せておけばよい。
- ④ 作業員の健康管理には、朝礼等の機会を利用したコミュニケーションが有用である。

**問題 22** アタッチメントの取付け・取外しに関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 取付けは、水平なところで行い、エンジンは高速回転の方が素早く作業を進める事ができる。
- ② 取付けピン穴のズレは、指を入れての確認は危険なため、目視で行う。
- ③ 取外し時は、油圧配管のストップバルブを閉め、オイルが流出しないようにする。
- ④ 取外し後は、故障の原因となる異物をパーツクリーナーやウエスで拭き取り、キャップ止めする。

**問題 23** 職場環境の改善のための活動である 5S について、次のうち**該当しないもの**はどれか。

- ① サービス
- ② 整理
- ③ 清掃
- ④ しつけ

**問題 24** 石綿事前調査に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 解体部分の床面積が 80 m<sup>2</sup>以上の建築物の解体及び改修工事は、事前調査報告の対象となる。
- ② 工事対象となる全ての部材について事前調査が必要である。
- ③ 令和 5 年 10 月以降は、石綿含有建材調査者のみが事前調査を実施できる。
- ④ 木材、金属、ガラス等の石綿が明らかに含まれていない建材については、調査が不要である。

**問題 25** 残置物の適正処理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 家庭残置物は「一般廃棄物」である。
- ② 解体業者、不用品回収業者など一般廃棄物処理業の許可を得ていない業者が、廃棄物の処理を行うことは禁止されている。
- ③ 家電リサイクル 4 品目とはエアコン、冷蔵庫、洗濯機、パソコンである。
- ④ 解体工事業許可、古物商の許可では、一般廃棄物の処理はできない。